

西村門下発表会

2011 11/18 Fri. 18:00

東京音楽大学 A200

1. 弦楽四重奏曲 第1番「蜂」／池本詩穂

Vn.1 小宮園花 Vn.2 堀内響子 Va. 櫻井すみれ Vc. 飯島奏人

幼い頃に蜂の群れに追いかけられた記憶をたどり、想像を絶する思い出を弦楽器で表現したいと思い書き始めました。とても短い曲ですが、4つの部分に分かれていて、蜂の群れや、蜂の毒々しい感じが表現できたらいいなと思います。

演奏を快く引き受けてくださった演奏者のみなさんには、毎回夜遅くの練習に付き合っ下さり、本当に感謝しております。私もこれからもより精進していかなければ、とこの曲を通して強く感じました。

2. nkuiyenkissmo!! pour sechs instrumenti／近江 典彦

Fl. 岡本裕子 Cl. 渡邊樹奈 Cor. 大平紹恵 Trp. 早川奏恵
Vn.1 岩田唯 Vn.2. 桜田悟 Cond. 碓山隆一郎

先ず、曲の完成がこんなに遅れながらも今日の初演に協力してくれた演奏者のみんなに感謝感謝です！途中にも関わらず一回目の練習に集まってくれた時のみんなの演奏と笑顔が(心の中では大分鬼の形相だったかもですが笑)、最後曲を書き上げる時の勇気と原動力になりました。本当にありがとうございます！

曲名ですが、毎度の事変なタイトルばかりと思われるかと思いますが、今回は「研究員」という事で考えてみて下さい。

いつもですとグローバリズムをテーマにして曲を書き進めていくのですが、今回は3月に残念ながら初演出来なかったkhon-nkuiyenku (khonはいつものタイトルから初めの部分を取ったもの)の簡易バージョンの様にしようと、IIはその様になったかと思います。I~IIIまでである全体としては気張らずに少しでも楽しんで耳に残る作品にしようと試みました。

khon-nkuiyenkuが少しは楽しめる曲?!→nkuiyenkissimo!!という事です。

3. スケールを聴くための小さなピアノソナタ／神山奈々

Pf. 釣川有紗

この曲では、異なる時代や異なる音楽様式を象徴するような複数のスケールが混在します。そして、それぞれにあったシチュエーションが瞬間的に喚起されるような音楽を目指しました。さまざまなスケールは私なりの勝手なロジックで気ままに連続しますが、不自然にならないように、そしてファンタジックに展開するように心掛けました。ソナタ形式で曲を書くのはとても久しぶりだったので、いろいろと参考の曲を聴きながら感じたのは、本当にすっきりしていて、効果的な、きれいな形式だな、ということでした。小さくて可愛らしい曲にしたいな、と思っていたのでちょっと女子向きです笑今日は音にしてくださる釣川有紗さんに心から感謝します。

6. 携帯傀儡／大熊夏織

Sop. 黛麻理奈 Pf. 大熊夏織

携帯電話本来の目的は、聴覚的であれ視覚的であれ”言葉の伝達”であったはずですが、現在日本における携帯電話の存在意義は、言葉の伝達だけでなく多くの要素を内包しているように思えます。

電話やメールでシンプルに物事を伝えるだけでなく、絵文字や顔文字で文面は彩られ、ネットの繋がりで自身に必要な情報はすぐに得ることも可能であり、アドレス帳に記されていく情報はもはや交友履歴として所有者の輪郭を浮かび上がらせる個人の歴史であり、さらにカメラ機能によっては、思い出の断片としての視覚的な個人情報が積み重ねられていきます。アプリ、ゲームなどいよいよ本来の用途とは何ら関係のないとも思える機能も、個人個人の趣味嗜好によって選ばれ、取り入れられ、やがて世界で一つの自分の為の携帯電話が出来上がっていきます。中身だけではなく外見でも、携帯ストラップの様に所有者の嗜好、主張、性格までもが見えてくるような情報がぶら下がっています。

このように、携帯電話は本来の目的以上に個人情報が含まれたものであると感じました。必要最低限な情報はもちろん、趣味嗜好によって選択された情報は、まるで携帯電話に自身を投影しているかのようにも思えます。所有者によって、それは便利な道具から自身の趣味でコーティングされたお気に入りの道具へと、さらに自分に都合の良い情報が投影され依存度が高くなれば、それはもはや他人としての”相棒”を通り越し、自身の”半身”や”分身”レベルの存在意義をも持ち合わせていくのではないかとも思いました。自身の好きな様にカスタマイズすればする程、それは自身の魂を込めた傀儡にもなるのかもしれませんが。

最初に戻りますが、本来の目的は”言葉の伝達”であったはずですが、自身を投影しすぎた便利な道具によって、生身の人間で補える行動や思考機能までも依存した時—機械に全てを委ねてしまった時、自身には行動し思考する力は果たして残っているのだろうか。この曲では、言葉の伝達を第一義としたところから、次々と付属・装飾されていく意味あるもの、無意味なもの、推移を書いていこうと考えました。Sop.による言葉はPf.によって装飾され、行動を拡張され、伝達意義を無視して嗜好に固められた個人的感情のみを貫き通します。

最後に、無計画の作曲者に振り回され続け、一緒に作品に関わってくれた黛氏に心からの最大級の感謝を申し上げたいと思います。